# 大井剛史 × 小林愛実
# 新日本フィルハーモニー交響楽団

*New Japan Philharmonic*

モーツァルト／歌劇「劇場支配人」序曲

ラヴェル／**ピアノ協奏曲** ト長調

休　憩

ベートーヴェン／**交響曲第5番** ハ短調 作品67「運命」

2024
6／29 土
14:00開演　(13:15開場)

熊谷文化創造館さくらめいと　太陽のホール

主催　(公財)熊谷市文化振興財団
後援　熊谷市・熊谷市教育委員会

*Profile*

## 大井 剛史　指揮　Takeshi Ooi, Conductor

2014年より東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。2024年4月より同楽団の常任指揮者に就任。17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京藝術大学指揮科を卒業後、同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。1996年安宅賞受賞。スイス、イタリア各地の夏期講習会においてレヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラプチェフスキーの各氏に指導を受ける。2007～2009年チェコ・フィルハーモニー管弦楽団で研修。2008年アントニオ・ペドロッティ国際指揮者コンクールで第2位入賞。在学中より東京二期会、新国立劇場などのオペラ公演で副指揮者をつとめ、2002年「ペレアスとメリザンド」(ドビュッシー)を指揮してデビュー。その後はオペラのほかバレエ、ミュージカル、日本舞踊との共演など多くの舞台公演を指揮。仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者(2000～2001)。 ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者(2009～2016)、山形交響楽団指揮者 (2009～2013)、同正指揮者(2013～2017)を歴任。このほか全国の主要オーケストラを指揮している。レパートリーは極めて広く、オーソドックスな管弦楽／吹奏楽の作品を中心として、現代音楽の初演、ゲーム音楽、映画音楽、ポップスなどありとあらゆる音楽を手がける。 トーク付きのコンサート、また子供のためのコンサートなどを通じて、より多くの方々に音楽に親しんでいただくことに情熱を注いでいる。東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)。尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

## 小林 愛実　ピアノ　Aimi Kobayashi, Pianist

2021年10月「第18回ショパン国際ピアノコンクール」 第4位入賞。1995年山口県宇部市出身。3歳からピアノを始め、7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューを果たす。これまでに、スピヴァコフ指揮モスクワ・ヴィルトゥオーゾ、ブリュッヘン指揮18世紀オーケストラ、ジャッド指揮ブラジル響、ポスカ指揮チューリヒ・トーンハレ管など国内外における多数のオーケストラと共演。2010年14歳でEMI ClassicsよりCDデビュー。サントリーホールで日本人最年少となる発売記念リサイタルを開催した。翌2011年にはセカンドアルバム「熱情」をリリース。2015年10月「第17回ショパン国際ピアノコンクール」ファイナリストとなった。2018年4月、 ワーナークラシックスよりCD「ニュー・ステージ～リスト＆ショパンを弾く」をリリース。同年8月には、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭に出演し好評を得た。2021年8月 ワーナークラシックスより最新CD「ショパン：前奏曲集 他」をリリース。フィラデルフィア・カーティス音楽院で、マンチェ・リュウ教授のもと研鑽を積んだ。2022年3月、第31回出光音楽賞受賞。

## 新日本フィルハーモニー交響楽団　New Japan Philharmonic

1972年、小澤征爾、山本直純の下、自主運営のオーケストラとして創立。97年、すみだトリフォニーホールを本拠地とし、日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会や特別演奏会の他、地域に根ざした演奏活動も精力的に行う。99年、小澤征爾が桂冠名誉指揮者に就任、歴代の指揮者には、初代音楽監督・小泉和裕(75～79年)、第２代音楽監督・井上道義(83～88年)、第３代音楽監督・クリスティアン・アルミンク(2003～13年)、第４代音楽監督・上岡敏之(16～21年)。ダニエル・ハーディングがMusic Partner of NJP(10～16年) 、インゴ・メッツマッハーがConductor in Residence(13～15年)を務めた。新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラの音楽監督に久石譲(2004年～) 、久石は新日本フィルMusic Partner (2020年～) も務める。受賞歴に三菱信託音楽賞奨励賞、三菱UFJ信託音楽賞、ミュージック・ペンクラブ音楽賞等。2023年4月より佐渡裕が第5代音楽監督に就任。街・ホール・オーケストラが一体となった音楽活動を行う。公式ウェブサイト：www.njp.or.jp

音楽評論家　萩谷由喜子

## モーツァルト　歌劇「劇場支配人」序曲

Mozart : Der Schauspieldirektor　Overture

1786年初頭、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756-1791）は皇帝ヨーゼフ2世から、皇妹マリア・クリスティーナとその夫ザクセン公子アルベルト・カジミール夫妻のウィーン来訪を歓迎するためのオペラを依頼されました。この依頼に応え、1月18日から2月3日までという短期間で書き上げられ、2月7日に初演されたのが、ゴットリープ・シュテファニーエの台本による1幕喜劇『劇場支配人』でした。劇場支配人フランクのオーディションに集まった俳優、歌手たちが妙技を披露するうち、女性歌手二人が「私がプリマドンナよ」と主張して喧嘩になりますが、最後に喜劇役者のブッフBuffが「私の名前の最後にOをつけたらBuffo（喜劇）になる。私は歌えないけど喜劇の主人公さ」と言って幕となるという内容です。ハ長調、プレストの序曲は、同年の『フィガロの結婚』序曲にも匹敵する傑作で、快活な第1主題となめらかな第2主題によるソナタ形式で書かれています。

## ラヴェル　ピアノ協奏曲 ト長調

Ravel : Piano Concerto in G major

「私は今、あなたのために協奏曲を作曲中です」

ロン＝ティボー・コンクールの創始者としても知られるフランスの名ピアニスト、マルグリット・ロン（1874-1966）は、ある日、親しい友人モーリス・ラヴェル（1875-1937）からこう告げられました。その12年ほど前に、ロンは、第1次大戦で戦没した友人6人の慰霊のためにラヴェルが書いたピアノ組曲『クープランの墓』を初演していましたが、6人の戦没者のうちの一人こそ、ロンの最愛の夫マルリアーヴ大尉だったのです。そして今またラヴェルは、ロンに初演してもらうためにピアノ協奏曲を書いていたのでした。1931年11月11日に完成した曲は、翌32年1月14日にロンによって初演され大成功を収めました。ジャズの要素も採り入れた斬新な作品で、多彩な楽器の効果的な使用法と、両端楽章にみられる数々の卓抜なアイディアはラヴェルの天才をよく物語っています。

**第1楽章：アレグラメンテ　ト長調　2/2拍子**　ムチの鋭い一閃から開始され、次いでピアノの分散和音にのってピッコロが第1主題を示します。一段落するとピアノが多彩な要素を含んだロ短調の第2主題を弾き始めます。

**第2楽章：アダージョ・アッサイ　ホ長調　3/4拍子**　独奏ピアノの弱奏からデリケートな陰影に彩られた詩情ゆたかな音楽が始まります。第34小節でようやくオーケストラが入り、やがてイングリッシュホルン（オーボエより完全5度低い同属楽器）が静かに歌いだします。ラヴェルのリリシズムの極致といえる楽章で、オーケストラを縫うピアノの美しさは比類がありません。

**第3楽章：プレスト　ト長調　2/4拍子**　小太鼓の連打にのった、叩き付けるような和音から始まります。ピアノの素早い楽句にクラリネット、トロンボーン、ピッコロが絡んで盛り上がったのち、ピアノが3つの並行和音を下降して特徴的な主題を奏します。このあと、ムチと小太鼓をベースに金管から行進曲風の主題も出されて熱狂を高め、最高潮で突然の幕切れを迎えます。

## ベートーヴェン 交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」

Beethoven : Symphony No.5 in C minor,op.67

「ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770-1827）の交響曲第5番ハ短調は、第6番ヘ長調とほぼ並行して書き進められ1807年末か翌08年初めに完成しました。08年12月22日にアン・デア・ウィーン劇場で2曲いっぺんに初演されたとき、ヘ長調交響曲が第5番、ハ短調交響曲が第6番とされていましたが、のちに現在の番号付けに改められました。この第5番は、ハ短調に始まりハ長調で終わることから明らかなように「暗から明へ」が理念となっていることと、冒頭の4つの音を全体の構成素材としていることが最大の特徴です。この「タタタターン」が「運命の動機」と呼ばれるのは、ベートーヴェンが弟子シントラーに「運命はこのように扉を叩く」と語ったことに由来するといわれていますが、真偽は不明です。また、第4楽章のみ、ピッコロ、コントラファゴット、トロンボーン3が加わることも斬新な創意で、交響曲にこれらの楽器を用いたのは、史上これが初めての例でした。

**第1楽章：アレグロ・コン・ブリオ　ハ短調　2/4拍子**　第1主題はクラリネットと弦による「運命の動機」から劇的に開始されます。ホルンに導かれてヴァイオリンが示す温和な旋律が第2主題です。展開部では主に第1主題を扱い、再現部では第2主題の再現のあと、オーボエが印象的なカデンツァ（即興的独奏部分）を吹きます。

**第2楽章：アンダンテ・コン・モート　変イ長調　3/8拍子**　2つの主題を交互に変奏する二重変奏曲。

**第3楽章：アレグロ　ハ短調　3/4拍子　スケルツォ**　低音弦楽器の弱奏から始まり、次いで「運命の動機」の変形がホルンに現れます。「象のダンス」のような中間部を挟んで主部が再帰し、最後は暗闇を手探りで歩くような移行部に入ります。

**第4楽章：アレグロ　ハ長調　4/4拍子**　その暗闇が突如明けて、爆発的な第1主題の全合奏から勝利の凱歌が始まり、運命の動機を用いた第2主題とともに力にあふれた音楽を展開します。最後は第3楽章の回想ののち、勝利の凱歌で全曲を結びます。

指揮 渾身の運命　　ピアノ 円熟のラヴェル

# 大井剛史×小林愛実

## 新日本フィルハーモニー交響楽団

New Japan Philharmonic

©Makoto Nakagawa

©Ayane Shindo

Program

- ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調
- ベートーヴェン／交響曲第5番 ハ短調 Op.67「運命」

©K.Miura

**2024年6月29日(土) 13:15開場 14:00開演**

**熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール** 熊谷市拾六間 111-1

【発売開始】
2024年3月28日(木)10:00～

全席指定(税込)

| | |
|---|---|
| S席(1階) | ¥6,000 |
| A席(2階) | ¥5,000 |
| U25(25歳以下) | ¥1,500 |

※未就学児入場不可。※U25:入場口で年齢の確認できるものをご提示いただきます。

チケット取扱い

| | |
|---|---|
| Web予約 | 熊谷市文化振興財団 チケットWeb(会員登録無料) |
| 電話予約 | さくらめいとチケットセンター (10:00～17:15 火曜休 ※祝日の場合は翌日) ☎048-532-9090 |
| 窓口販売 | 熊谷文化創造館さくらめいと(10:00～17:15 火曜休 ※祝日の場合は翌日) |
| | 八木橋百貨店5階プレイガイド(熊谷市) ☎048-523-1111(代) |
| | 宮脇書店 行田店 ☎048-554-6300 |

・車いす席をご希望のお客様はさくらめいとチケットセンターへご予約ください。・やむを得ない事情により一部変更する場合があります。
・定員1,000名に対し無料駐車場450台のため、駐車出来ない場合があります。できるだけ乗り合わせ、または公共交通機関をご利用ください。

JR高崎線・籠原駅(南口)より無料送迎バス運行(所要時間:約5分)【行き】①13:00 ②13:15 ③13:30 ④13:45 【帰り】終演後随時

主催・問合せ｜(公財)熊谷市文化振興財団／TEL:048-532-0002／火曜休(祝日の場合は翌日)　後援｜熊谷市・熊谷市教育委員会